

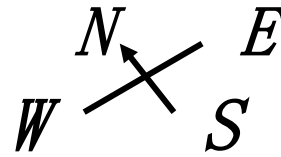
藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会
(略称) 藤沢エコネット

2019年11月1日

第306号



主
な
記
事

- ・ 壱岐市・鎌倉市に続こう!
- ・ クマゼミ抜けがら分布図・世界遺産!?
- ・ ネオニコチノイドとグリホサート

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / F A X 0466-87-4922

稲作農業伝来以来の、日本と韓国の長い友好関係

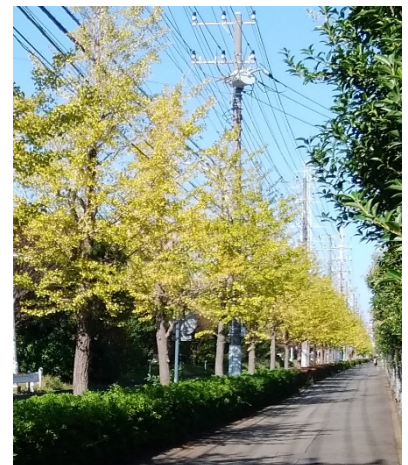
今、反韓、嫌韓などと韓国を蔑視する風潮がマスコミ等にはびこっている。安倍首相までもが、徴用工問題等で経済制裁を加え、国家間の賠償問題は解決したが、個人間の請求問題は消えていないことをお互い政府で確認しているのに、韓国は約束を守らない国だと反韓思想を煽っている。一体、日本と韓国は隣国同士でありながらいがみ合わなければならない国なのか。古来からの歴史をひもといて見ると、いがみ合うどころか、日本は韓国から多くのものを学び教えて貰った友好国であったということが解る。

日本には、今から3～4000年前の弥生時代に稲作農業が入って来たのだが、稲作農業をもたらしたのは韓国からの渡来人だと言われている。昔は文字等の技術書があった訳で無く、渡来人が、種と稲作技術を持って日本にやって来て稲作農業を伝えたのである。そして、こうした渡来人が稲作農業を日本全国に広めたと言われている。稲作技術の伝来によって、日本の縄文時代は大きく変貌した。縄文時代は、毎日の食べ物は狩猟や山菜の貯留物に限られていたが、稲作伝来によって収穫出来たお米は1年を通して貯留でき、食生活も安定し、その日暮らしから安定した暮らしが出来る時代になった。稲作農業の流入によって、日本も文明時代が始まったと言えることが出来る。

しかも、当事、韓国から日本に入ってきたのは稲作技術ばかりでなく、水田に水を引く灌漑技術、鉄製農具、建築技術、牛馬、青銅器等々枚挙にいとまがない。養蚕技術も流入し、生糸の生産も始まり、巨大な古墳や文字などもこの時代に入ってきたと言われている。

このように、日本の古代史は韓国とは切っても切れない縁でつながれている。それを反韓だ、嫌韓だなどいってぶち壊す等ということは、とんでもないことである。歴史的に見れば、日本と韓国は兄弟のような間柄の国である。いがみ合うのではなく平和で友好関係をいつまでも続けなければならない国といえる。現に、日本と韓国は、豊臣時代の朝鮮出兵以降、明治時代まで一度も争ったことのない国である。江戸時代には朝鮮通信使といって朝鮮から幕府の将軍が変わるたびに大規模な使節が日本を訪れ、幕府もこれを大いに歓待し友好を深めていたのである。

明治時代になって日本が韓国を併合し、植民地にして以来、韓国を見下し、韓国民の権利を奪ったことが、今回の徴用工問題や慰安婦問題の対応にも表れている。古来からの日韓の長い友好関係を、今一度、思い起こし、一日も早く、日韓の平和と友好関係を取りもどしてもらいたいと願うものである。(小林麻須男)



色づいたイチョウ並木(桐原工業団地)

壱岐市・鎌倉市に続こう！！
～気候異常事態宣言で SDGs 未来都市を～

地球温暖化に起因する気候変動が人間社会や自然界にとって著しい脅威となっていることを認識し、ここに気候異常事態を宣言します。

令和元年9月25日 壱岐市長

検索→「壱岐市気候異常事態宣言」

台風15号、19号により被災した方々にお見舞い申し上げます。

日本各地で、今年はこれまでに経験したことのない猛暑、台風などによる強風と豪雨などの異常気象が発生。温暖化の影響で海水温が上昇し台風が大型化したことによることは否定できません(東大大気海洋研究所)。

国連気候行動サミットでの16歳の少女グレタ・トゥンベリさんのスピーチが話題を呼んでいます。

温暖化対策の科学的根拠である、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が示した事実から目を背けている各国のリーダー・大人たちへの責任を問い、ティッピングポイント(気候変動が急速に進む後戻りできない転換点)に言及、このままでは許容できるCO₂の放出量は後8年半しかない、行動を起こせと訴えています。検索→「グレタ演説」(字幕付)

世界では国や都市・自治体等の行政機関が気候危機に対して非常事態宣言を次々と発表し、気候変動を人類の危機として、緊急対策の必要性を市民に伝えています。宣言自治体は現在1,169を超え、日本では9月25日に長崎県壱岐市を初め、10月4日に鎌倉市が宣言を決議しました。→「鎌倉市気候異常事態宣言」

藤沢市は2022年度までにCO₂の排出量を1990年比40%削減する目標を掲げていますが、2015年度から2016年度はやや増加しており、今後更なる努力強化が求められています。

異常気象が常態化する中で藤沢市も、全市民が家庭生活、市民生活、産業活動において再生エネルギーと省エネを初め、脱炭素化の実現に向けて、壱岐市、鎌倉市に続こうではありませんか！！そしてSDGs未来都市をめざす取り組みを進めましょう！！

(外岡豊・宮地俊作)

ネオニコチノイド系殺虫剤と
グリホサート成分除草剤

発がん性や胎児への脳への影響などが指摘され、国際的に規制強化がすすんでいる農薬が、日本では無造作に使われ、使用量も増えている事はご存じでしょうか？

代表的なのが、ネオニコチノイド系殺虫剤とグリホサート成分除草剤です。

ネオニコチノイド系農薬は、花粉媒介者として農作物生産などに大きくかかわるミツバチの大量死との関係を認められ、EUでは3種類を使用禁止にしています。更に胎児などへの発達神経毒性を指摘する研究結果も増えています。しかし日本では、7種類のネオニコチノイド系農薬を登録していて、残留基準値を緩和するなどしています。

グリホサートは、2015年WHOで、発ガン性が認められていて、中東、ヨーロッパの各国で全面禁止、個人使用販売禁止など、規制強化がすすんでいます。昨年、アメリカでも320億円の賠償命令を皮切りに1万8人を超える訴訟が起こっています。

藤沢市では、所有する大庭台墓園で、数年前より猫がガンで亡くなるケースが相継いでいるとの市民から相談を受け、調査をしてみると、グリホサート成分除草剤が、一部の場所で年2回使用されていたことがわかりました。大庭台墓園では、グリホサート成分除草剤は今後使用しないとなりましたが、やはり体の小さな生き物に対しての被害の大きさを考えると、胎児や子どもたちへの影響が危惧されます。2015年国際産婦人科連合でも、胎児への有害化学物質への暴露と健康不良との関連は、ますます明白になっているといっています。

国が認めているため保管や使用量を守れば大丈夫との考え、又多く販売されている現状もあるため、行政として全面的に公共施設使用禁止することは難しいようです。

しかし、市民の安全と健康を守るために、予防原則に基づいて安全性が確認されるまでは、使用禁止にするべきと考えます。(谷津英美)

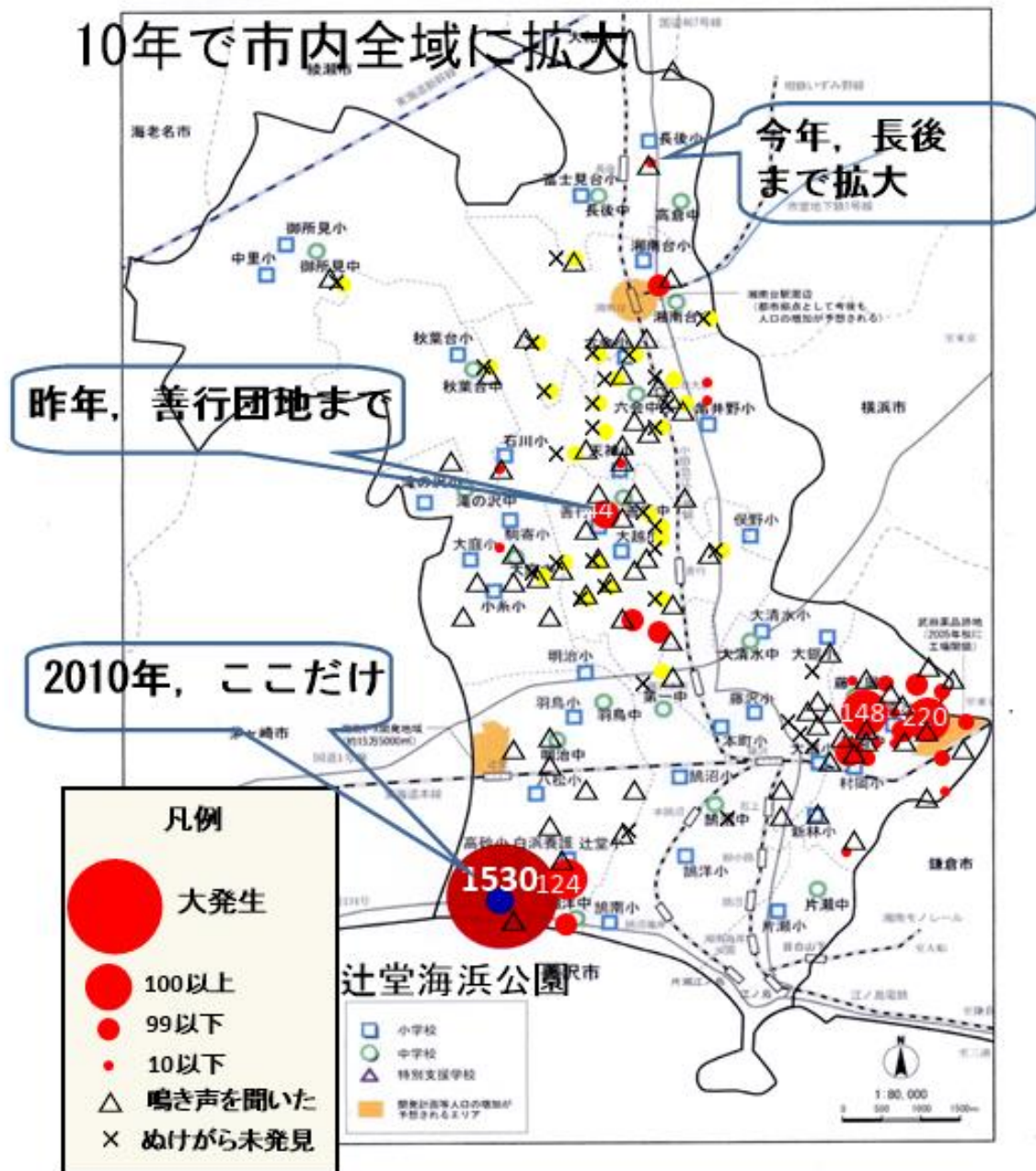


こんなに見つかった!! クマゼミのぬけがら

クマゼミは、最近、藤沢で繁殖が確認され、徐々にその分布は10年で43ヶ所に広がりました。ジュニア調査員とその家族により調べています。2010年に、辻堂海浜公園でクマゼミの集団発生が確認され、調査を続けてきました。10年で市内43ヶ所で、長後までぬけがらがみつかるようになりました。

HPはこちら→<https://f-kumazemi.org/>

こんなに見つかった!! クマゼミのぬけがら (第8報,2019)



藤沢市内クマゼミのぬけがら分布図(2019)

公益的の市民活動助成事業 HP検索→「藤沢クマゼミ調査研究会」

これぞ世界遺産！

太平洋の島々ではごみ処理問題が深刻です。

下の写真はパラオのごみ処理場。埋め立て地に新しいごみ山が標高を更新し続けています。

太平洋の島々のどこでもみられる風景です。



ところが、この国はここで終わりません！隣接するリサイクルセンターで“世界初”のプロジェクトが進行しているのです。

国内のごみを循環させ持続可能なシステムを目指します。このプロジェクトの責任者は、藤勝雄さんという日本人。東大農学部との協同による「ごみの再利用によるバイオマス・有機農業の事業開発」等にも取り組んでいます。将来は埋め立て処理をやめ、全てリサイクルされることを目指します。更には、従業員約80人は全てパラオ人雇用、うち1割は障害者です。国としての取り組みでは世界初！これが国連に認められれば正に快挙！「小さい国だからこそできるんだ！」と、所長の藤さんは言います。

正に“小国の時代の始まり”を感じさせる出会い



でもありました。上の写真は施設内のガラス工房。

瓶ごみなどガラス類は粉碎され、京都から赴任している日本人女性工芸家の指導の下、パラオ人の感性を生かした作品が出来上がっています。

（ヨットで太平洋航海中 2018.6月 武本 匡弘）

ECONET INFORMATION

▲第24回ふじさわ環境フェアEco2まつり

～環境は明日に届ける贈り物～

環境クイズ 展示 即売 飲食 スタンブラリーなど

11月9日（土）10:00-15:00

藤沢市民会館 入場無料

主催=藤沢市・実行委員会 問合せ=環境総務課

▲火山を知ろう

講師 大島治さん(火山学者)

11月16日（土）14:00-

市民会館第一展示ホール 参加費 500 円

主催／湘南のなぎさを守る藤沢市民の会

協賛 藤沢エコネット



▲「西から昇った太陽」

第五福竜丸の被ばくを描くアニメ

11月15日（金）14:00- 藤沢市民会館

参加費 500 円

主催／ピースリレーふじさわ(0466-36-8916)

▲くらしフェスタ藤沢 52回みんなの消費生活展

11月30日（土）10:00-15:00

展示 トーク ワークショップ ミニ講座など

湘南台公民館

抽選会で地元の柿 野菜のプレゼントあり

主催／藤沢市・実行委員会 0466-50-3573

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 77 777777

◆事務局会議 11月4日（土）14:00～

市民活動プラザむつあい



《編集後記》10月12日、大型台風19号が伊豆半島に上陸、関東甲信東北などで千曲川ほか多くの河川が決壊・氾濫、死者87人など大被害を受け、激甚災害、大規模災害復興法の適用となった。藤沢でも最大瞬間風速37.6m/s、停電6300軒、避難者4675人にのぼった。その後も台風、大雨は続いた。地球温暖化で海水温度が上昇した事が大型台風の原因という。気候危機到来！身近で出来る事は、省エネ生活を心がけ、物の使い捨てを止めて燃やすごみを減らそう！（A）